

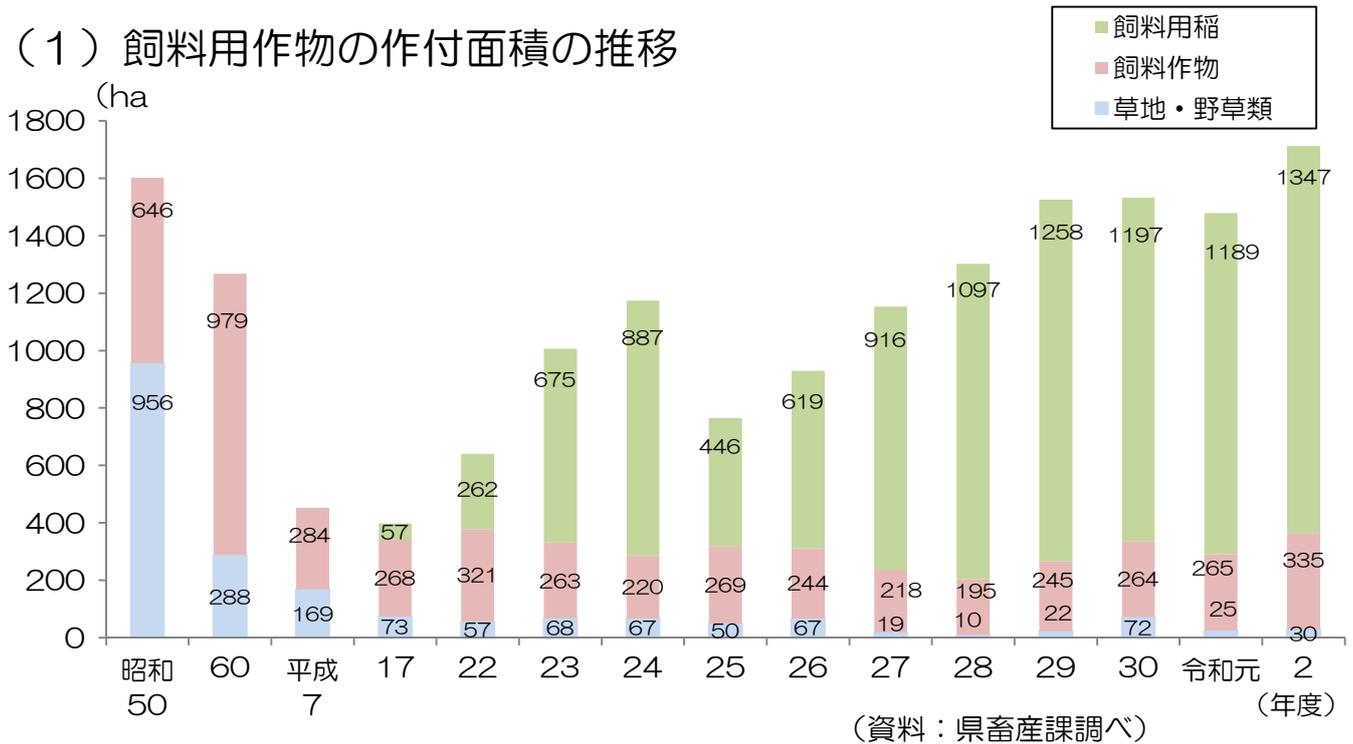
自給飼料

水田化率の高い本県では、水田を活用した飼料生産が必要となります。

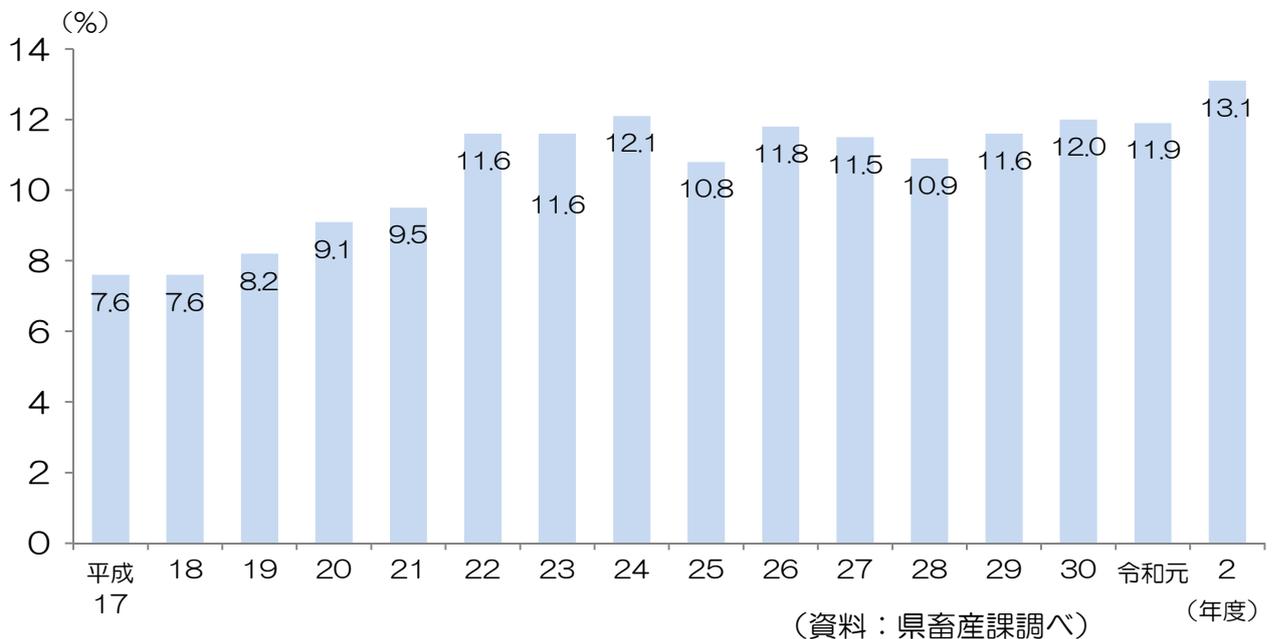
近年、麦・大豆の定着していない地域を中心に、水稻を飼料として利用する稲WCS※1や飼料用米の取組が拡大しています。これらの取組は、耕種農家が米の生産調整として稲WCSや飼料用米を作付けし、コントラクター※2等が収穫調製を行い、畜産農家が利用するという『耕畜連携』により実施されています。

※1：稲WCS（ホールクローブサイレージ）：稲発酵粗飼料のこと。稲の子実が完熟する前に、子実と茎葉を同時に収穫し、発酵させて飼料とするもの。
 ※2：コントラクター：畜産農家や耕種農家（水稻、野菜等を栽培する農家）から、飼料の収穫・調製作業を請け負う組織（飼料生産作業受託組織）

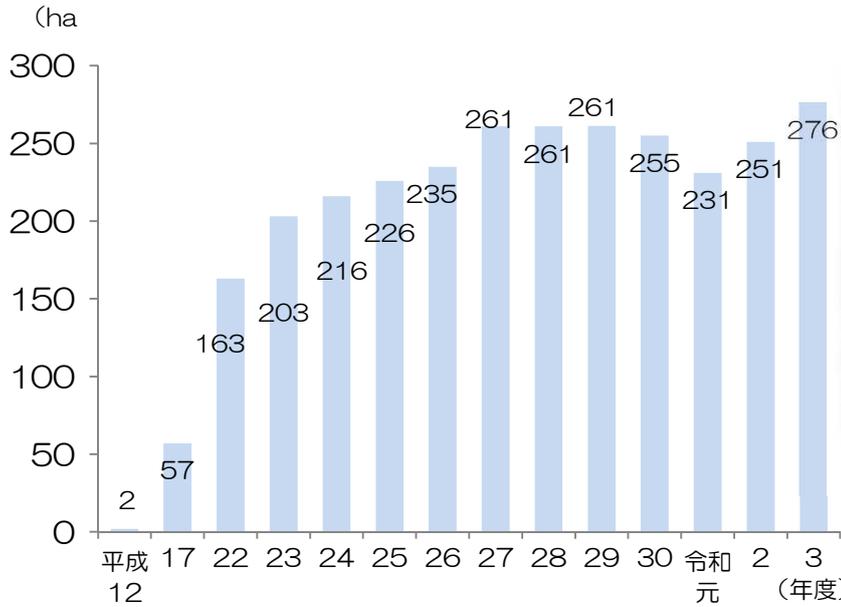
（１）飼料用作物の作付面積の推移



（２）飼料自給率の推移



(3) 稲WCSの取組

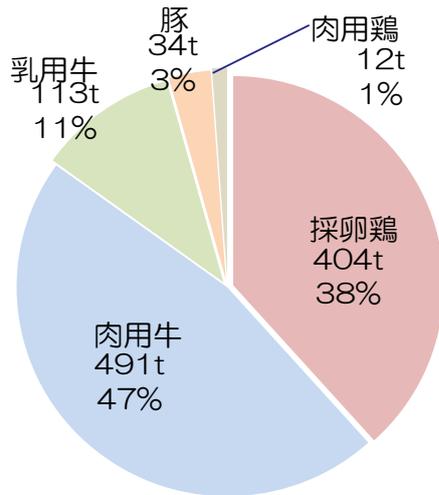


汎用型飼料収穫機を利用した
コントラクターによる稲WCSの収穫

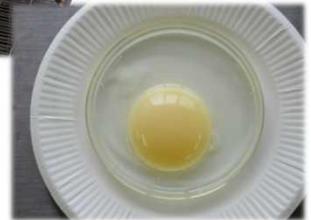
稲WCS作付面積の推移 (資料：県畜産課調べ)

(4) 飼料用米の取組

畜種別利用状況 (令和3年度)



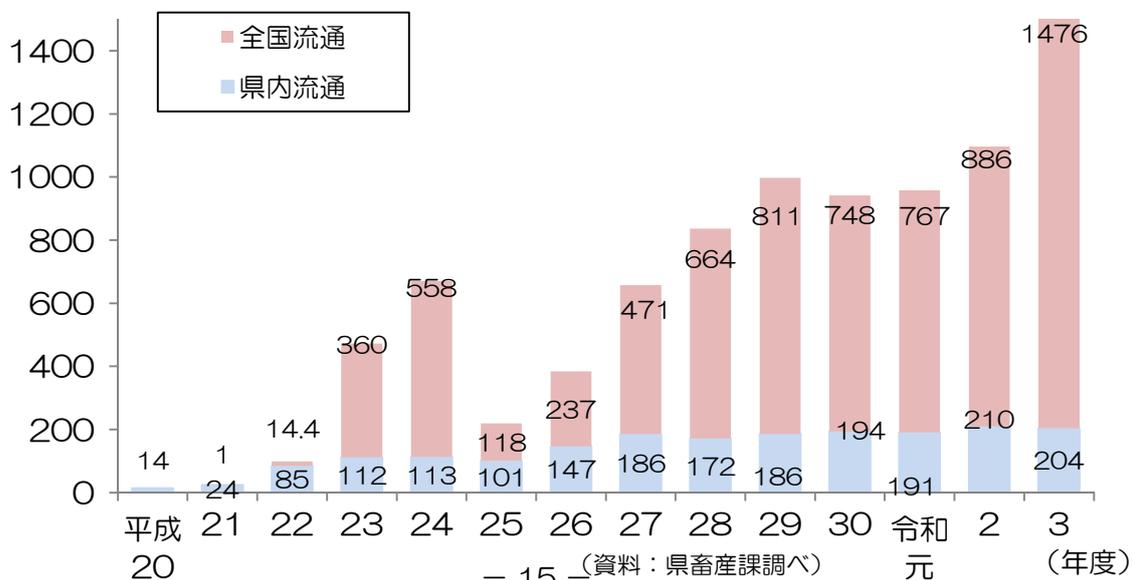
飼料用米の採卵鶏への給与



飼料用米を多給して生産した鶏卵

(資料：県畜産課調べ)

(ha) 飼料用米取組面積の推移



(資料：県畜産課調べ)